



## 第17号

発行  
平成26年12月10日  
発行責任者  
大西和子  
連絡先  
伊勢市御園町高向927

### 発足一六周年記念講演会

日時 平成二六年六月一五日(日) 一三時～

(オープニング演奏 桑名弦楽合奏団)

会場 三重県総合文化センター

フレんテみえ 多目的ホール

参加者 三〇〇余名

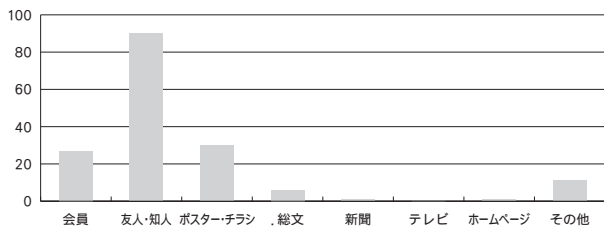
**演題** いのちのバトンタッチ  
**映画** 「おくりびと」に寄せて



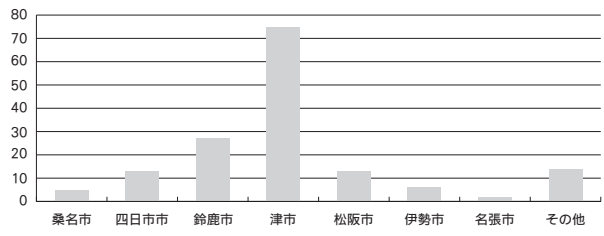
講師  
青木 新門氏  
(作家・富山県在住)

青木新門氏のお話から、どんな状況下においても、亡くなった人は全ての人に感謝し、遺された人びとに命をたくすのだとわかり、生と死が交差する瞬間を感じ取る重要性に感

本日の講演会を何でお知りになりましたか？

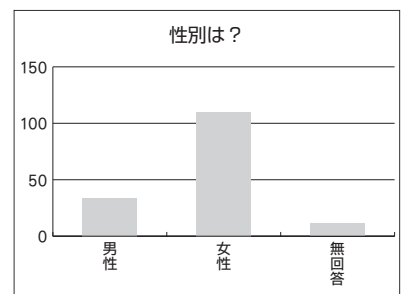


あなたのお住まいは？

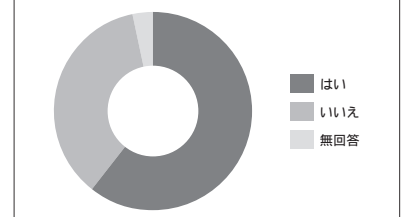


### 青木新門氏講演会アンケート回収一七枚

銘を受けた。私は実母の臨終に間に合わず一〇年間介護にかかわっても罪悪感が残っていました。が今回で救われた気がします。ほうたるや、今を生きると、納棺夫(T)



あなたは「みえ生と死を考える市民の会」をご存知でしたか？



### アンケート感想文

今日の講演会の感想をお書きください

紙面の都合で抜粋

- とても実感があり聴き入ってしまいました。今迄に無い講演でした。とても暖かい気持ちで帰ることが出来ました。
- とてもよかったです。すばらしかったです。
- 映画を見てお話を聞かせていただくのを楽しみにしていました。とてもすばらしいご講演をありがとうございました。ご本を読ませていただきます。
- 大変勉強になり、残りの人生の生き方を考えなおすよい機会になりました。今日の半日はとてもよかったです。ありがとうございました。五人の孫達に話します。



- 様々なご経験をされて来られた先生、本当にありがとうございました。
- どうぞ、お元気でいらしてください。
- 8 目と目を合わせてのいのちのバトンタッチ、良いお話を聞かせていただきました。
- 9 今日は有難うございました。「いのちのバトンタッチ」青木先生にひかれてとても楽しみにまいりました。本当に内容も素晴らしく本日の講演にふさわしかったと思います。また、来年期待しています。
- 10 非常に内容の濃い講演会だったと思います。人の心を聞くには：まず相手を認めることから：仕事をやるならことばも：目の前の仕事も全身全霊で：きちんと：これらすべて考えさせられる言葉だった。
- 11 これから「ありがとう」をいっぱい言うう！ きょうはとにかく来て良かったです。先生の年令を感じさせないパワーに拍手です。
- 12 話しに引き込まれて、楽しく良いお話がきけて本当によかったです。
- 13 「ありがとう」の言葉が持つ力を再認識しました。暮しの中で生かしていきます。
- 14 すごかったです。ありがとうございました。一生わすれません。五月一七日で七〇歳になりました。ほんとうにあ・り・が・
- と・うございました。
- 15 心、あたたまるお話でした。ありがとうございました。次回のお話を是非聞きたいと思います。
- 青木先生から本当の心のそして「生きざまのバトンタッチ」をいただきました。心から感謝申し上げます。
- 16 「まるごと認める」ことの大切さを涙と笑いの中で深く考えさせられました。
- 17 生と死をわかりやすくさせてもらいました。私も考え方がかわりました。
- 18 「ありがとう」の言葉を忘れない人でありたいです。
- 19 とても、とても感激しました。有難うございました。今年は美杉の山々は輝いています。緑がオレンジ色よりも強く光っています。
- 20 すばらしいひとときを感謝いたします。いろんなことを考える時間を与えて下さったことに感謝いたします。どうぞお身大切に、大切なこと言いつづけてほしい！
- 切に願います。
- 21 確かに受けとらせて頂きました。
- 22 よかったです、もっと話を聞きたいと思いました。
- 23 お話をふまえて「目の前の仕事をきちんと
- 5 光輝く話…、一年前に体験した事と重なって泣けて泣けて仕方ありませんでした。本当に「ありがとう」ございます。
- 6 いのちのバトンタッチ、心から共感できました。「かがやいてみえる」その瞬間を感じたとき本当に「ありがとう」がいえますね。
- 7 誰かに丸ごと認められ、受け入れてもらえれば生きて行けるといふこと、そのとおりだと思いました。社会が、とても不安定で危険な方向に進もうとしている今、青木先生のお話が心に響きました。

とこなす」ことの大切さ「死とむきあう」

死の瞬間に立ち会うこと、そこから学ぶことを心にとめて過したと思います。よくわかるお話に感動しました

24 生命の尊さ、生きている時から死を受け入れ輝ける人生を送りたいと思います。

本当にありがとうございます。

25 〃いのちのバトンタッチ〃いい言葉です。仕事を通して、又、プライベートで生きて生まれた感動。ありがとうございます。もう一度死を違う角度から、考え直したいと、今、考えました。

26 すばらしかった。ことばにできないほど、ありがとうございます。

27 これからの人生を考える力になりました。ありがとうございます。

28 自分が死にゆく時、いのちのバトンタッチができるのかなあ。できるといいなあと思う。生きているもの同士の気持ちの伝え合いができるように生きたい。

29 大変興味深く聴かせていただきました。孤独死とは何と悲しいことでしょう。

これから超高齢社会において、悲しい死がないように、家族で地域での見守りができる社会が来ると良いと思います。

夫とは不仲ですが、死ぬ瞬間「あ

りがとう」と言えるようまた言われるようこれから努力したいと思いました。

30 全くの感動のしっぱなしでした。兄が息をひきとる前にありがとうございます。言葉で今日のお話と通じた。母もありがとうございます。

31 重い内容と思っていました、中広い経験社会情勢を含めてユニークに話されて大変感銘を受けました。

32 この数ヶ月で父と母を見送っていたので、とても身近に興味深く聴かせていただきました。

33 「いのちのバトンタッチ」の意味よく解りました。目をそむけずに、つないでゆきたいと思います。

聴かせていただいて良かったです。感謝します！ありがとうございます。

34 今日で三年目、参加させていただきました。この三月に義父を送りましたが、いのちのバトンタッチがあまりにもおろそかにされてしまったことに、悔やむばかりです。

反省とともに、これからの生き方、死なせ方を考えたいと思います。

35 青木新門さんのお話をお聴きして、いのちのバトンタッチ〃の意味するところが少し、解らせていただいたような気がします。

感動でした。ありがとうございます。

36 映画「おくりびと」を思い出しました。

よいお話ありがとうございます。

37 心に残る、すばらしい講演でした。映画「おくりびと」をひもときながらのお話は、心に残りました。講師のあたたかい人柄が感じられる講演会でした。

ユーモアを交えた語りは、聴く者を退屈させず、またたく間に時間が過ぎてしまいました。すばらしい先生（青木講師）の講演に出会う事ができ、感謝します。

スタッフの皆様ありがとうございます。来年の記念講演……楽しみにしています。

38 ユーモアありでお願いします。

死と直接携わっている方の話として、死をタブーとするのではなく、その人の人生そのものを尊重していることが伝わってきて大変参考



になりました。

39 映画は二度見たが、裏話が聞けてよかった。小さい八歳の時までに妹の死、弟の死を体験された話には、涙が出た。おじさんに会えたのも、良かったと思います。

40 「いのちのバトンタッチ」いいですね。とても良いお話を聞かせて頂けました。来ることができて本当によかったです。

41 「ありがとう」がとても心に残りました。42 ご自身の折々の生き様をありのままに語られていたようなお話にひき込まれ、あっという間に時間が経っていました。

ご自身のお話と出会われた人々からうけとめられた事柄をいろいろな形で伝えて頂きました。自分のものにするには少し考える時間が必要だと感じています。

臨終の場に立ち合った経験の重要さを考えたことがなかったのですが、祖父母は私に大切なものを伝えていってくれたのだと気づかされました。

43 ありがとうございます。分けて見るのではなく全体でみる。現場、その場で見て感じるものが深いということを教えていただいた。ありがとうございます。

44 感動しました。本木さんの礼儀正さの話、

死んだ自分の弟をおんぶしている長崎の被爆児の写真、先生の御苦労した若い頃の話等心に残りました。まるごと認める力の大切さ、教えられました。

ユーモアの中に多くの教えがありました。若い人、子供にも聞かしてやりたく思いました。

45 青木先生のお話は面白く、人を聴く気持ちにさせてくれる力がありました。心が暖かくなり、色々と考えさせてくれるよいお話でした。

46 いのちのバトンタッチ、心にしみました。「ありがとう」いい言葉です。私も広めていきたいな。

47 「新門」様というお名前からお寺のご住職かと思うお名前でしたが、ずい分ご苦労、波乱万丈の人生を歩いてみえた方で驚きました。

「おくりびと」のできたいきさつは興味深かったです。

まるごと認める、身にしみます。いのちのバトンタッチの意味考えてみたいと思います。

48 良い話を聞かせていただきありがとうございます。ありがとうございました。途中、泣かせられたり笑わせ

前向きに生きる。

49 楽しくて、人間味のあるお話でした。

死にかかわる話、そして、どう生きるかについて、自分が日頃考えていない

ことがあり、それが聞けてよかったです。「いのちのバトン

タッチ」のお話が心に残りまし

た。私の母を連れてきて聞かせてやりたいと思いました。また、来年の講演も聞いてみたいです。

準備していただいた方々、ありがとうございます。

50 八二才を超えた私は、十分に生きたと思っていた。生と死を、笑いの中に語られる青木先生の人生の深さを聞かせて頂いた。素晴らしい講演だった。丸ごと認められる人生は送れそうもないが、もう少し、生きてみたいと思う。「ありがとう」と言って





逝けるだろうか

51 青木さんの人生豊かな経験から自信を持って生きる事と生と死を考える事を提言していただきました。有意義なお話有りがとうございました。

52 私は死を看取りました(四人)。同感でき、とても良いお話でした。ありがとうございます!!

53 偶然書店でチラシを見てこの会を知りました。とても素敵な講演を聞く機会を頂き、本当にありがとうございます。

54 とても面白い講話の中で芯の通った人間

性と幼児期の苦労が手にとるように理解でき、今の新門氏があるのだと感銘しました。冷房が強すぎたと思われませんでしたか? 高齢者が多かったと思いますがもう少し配慮していただけたらと思います。

55 桑名合奏団が四曲でしたが、気持ちが静まってもよかったです。

青木さんの引き揚げ体験他、吉村昭との出会い等面白かった、人の死に方を考えさせられた。

56 先生のすばらしい語り、元気がえられませんでした。

人は、「全身全霊が認められること」が大切だ!! 先生の著書の内容がよくわかりました。ありがとうございます。

57 青木先生の波乱万丈の人生を泣いたり笑ったり感動いっぱいにお伺いしました。

「人間を丸ごと認めることが出来る人間」になることの大切さを改めて考えさせられました。雑草や小石が光って見える、あらゆるものが輝いて見えるような終末に立合う!!のちのバトンタッチすばらしいですね!! ありがとうございます。

58 ほんとうに楽しいその中にも有意義なお話を聴かせて頂きありがとうございます。

59 講師のユーモアたっぷり重い、題もあつという間に聴かせていただきました。

ありがとうございます。

60 オープニングは、今回この会にふさわしい美しい音色でもとてもすてきでした。ずーっと聞いていたいくらいの演奏です。病気で入院中の友や死んでいった人のことを思い起こさせてくれる音楽です。

青木先生のお話は、「納棺夫日記」を読んだだけでは解らない内容が、良くお話の中で表わされたと思いました。

61 準備スタッフ(チケット受付女性)対応が悪かった。イス前から一〇列まで硬いイスで長時間の座位は苦痛になられる方がいるではありませんか。

講演内容等は大変勉強になりました。

62 とてもすばらしい話で、時間のたつのも忘れていました。話にすいこまれました。

63 同年代の先生の講演興味深く感動して聞かせていただきました。ほんとうに有難う御座いました。

64 参加させていただいてよかったです。感動させられました。これからの生き方を考えることができます。

65 生と死を改めて新鮮な気持ちで考える機会を頂きました。

青木さんのお話しは面白く笑いがあつたり涙するお話もあり、自分の人生やこれからの生き方を考えさせられました。今日来させてもらって良かったです。ありがとうございます。ございました。

66 「目と目で交わす一瞬のいのちのバトンタッチがあるのです」がよかったです。

67 青木新門氏のお話はとてもよかったです。

毎年来ていますが来年も必ず来たいです。

68 一〇〇%感じ入りました 謝々。

69 感動して涙がとまりませんでした。来て良かったです。ありがとうございます。

70 オープニング演奏の選曲及び演奏は大変よかったです。

二時間の間、全く時間を忘れるような話の内容と話術に感動しました。

71 鈴鹿でチケットを販売して頂けてありがたいです。

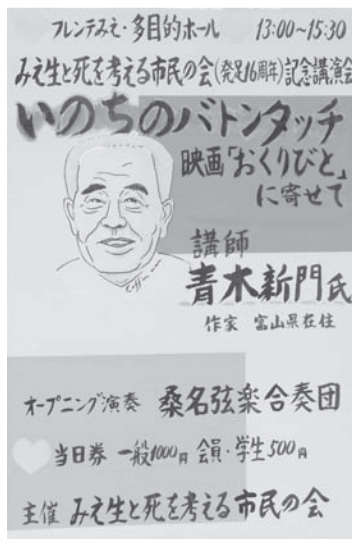
72 とても楽しい話でたいくつしないで笑いもあり色々と役に立つ事がありましたよかったです。

73 納棺夫日記↓映画「おくりびと」↓いのちのバトンタッチ。悲しいこと（死）を笑いで話せる二時間半、時間はあつというままでした。毎年心に残る講師ばかりです。ありがとうございます。

74 著書で既に人となりを知っていたが、生身の人を前にして映画、「おくりびと」と著書「納棺夫日記」との関係などを聞き納得。後半の講演は自らの半生を通して説得ある内容となっていた。ユーモアを交えながら「生と死を考える会」としてのタイトル「いのちのバトンタッチ」の問題を話された。青木氏の言われた「死の現場」に立つことの大事さを学んだ。人生折々が縁だ。

生と死を考える場でもある。二十三年前に亡くなった父の最後の言葉「有難う」が聞こえてきた。

二年前の母の死に顔に「有難う」を返した。臨終の大切さを「いのちのバトンタッチ」の視点で見直す機会を得た。



## 勉強会報告

### 前年度 第二回 勉強会

日時 平成二五年一月一七日(日)

一三時三〇分～一五時

場所 橋北公民館 会議室

参加者 一三名

#### 演題

高齢者の「終の棲家」を考える

中道 和久氏



#### 感想

従来とはやや雰  
囲気の異なる勉強  
会・語り合いの会  
でした。初めに  
「キャリアパミュ

パミュ」と三回唱えてから自己紹介をと、中道氏に言われて、みんな真面目に舌をかみそうになりながら…笑いの渦。まんまとベテラン・ケアマネージャーの手腕にのせられた私たち。緊張をほぐすと同時に各人の老化度も計られたみたい？

二つのグループに分かれて語り合いもなご

やかに。問題意識の高い三名の会員さんが、初参加でした。(Y)

## 参加者アンケート感想文(抜粋)

- 1 初めて参加した勉強会でしたがものすごく勉強になりました。できるだけ今後も参加させていただきます。
- 2 自分の将来について話すことによって、自分の問題を少し明確にすることができた。実際にその道のプロである人(中道氏)から話が聞けて大変良かった。
- 3 具体的意見交換も先生のお話も何うことが出来ました。ありがとうございます。
- 4 自由にとり感じでつい口を出し過ぎたかと反省しています。でも暗い話を楽しく会話でき楽しかったです。もう少し具体的な話もお聞きしたかった気がします。
- 5 普段漠然と不安に思っている老後のことを、いろいろ整理できるとてもいい機会を頂くことができました。語り合うことって大切ですね。中道先生是非もう一度いらしてください。
- 6 とても良いお話を聞かせていただきました。楽しい先生で、またお話を聞きたいです。会員の方の意識の高いのにびっくりです。



- 7 実践に伴う内容の講演で、将来に向かったの参考にさせていだきたいと思いましたが、もう一歩踏み込んだ事例もお聞きしたかったと時間の短さを感じました。いつもの会場と異なった関係か参加者が少なかつたことは残念でしたが、親しく話し合いができたことはよかったです。次回を期待しております。
- 8 従来の勉強会とは雰囲気はやや違った会になり、これはこれでよかったと思いましたが、まだまだ学ばなければならぬ問題があると再認識しました。初参加の方が3人あったことも嬉しいことでした。

## 都道府県別

### 健康寿命ランキング上位五県

(カッコ内は平均寿命)

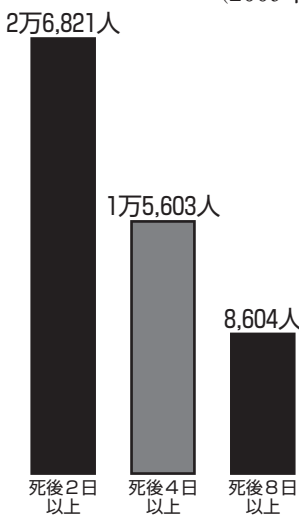
#### 男性

- 【1位】愛知県 七一・七四歳(七九・〇五歳)
- 【2位】静岡県 七一・六八歳(七九・三五歳)
- 【3位】千葉県 七一・六二歳(七八・九五歳)
- 【4位】茨城県 七一・三二歳(七八・三五歳)
- 【5位】山梨県 七一・二〇歳(七八・八九歳)
- 【16位】三重 七〇・七三歳

#### 女性

- 【1位】静岡県 七五・三二歳(八六・〇六歳)
- 【2位】群馬県 七五・二七歳(八五・二七歳)
- 【3位】愛知県 七四・九三歳(八五・四〇歳)
- 【4位】沖縄県 七四・八六歳(八六・八八歳)
- 【5位】栃木県 七四・八六歳(八五・〇三歳)
- 【26位】三重 七三・六三歳

## 65歳以上の孤独死数(2009年)



# 施設見学会

日 時 平成二六年二月二日(水) 午後

見学施設 藤田保健衛生大学

七栗サナトリウム・緩和ケア病棟

参加者 二九名

当日は、中村看護部長様より藤田保健衛生大学七栗サナトリウム全体の事業説明、伊藤博彰先生、菊川看護科長より緩和ケアの取り組みについてご説明いただきました。

緩和ケア病棟は二十床、全国初の大学病院認可の施設である。患者は、多くが三重大学医学部付属病院、三重中央医療センターなど、近隣のがん診療連携拠点病院やがん診療連携推進病院等からの紹介が多く、全がん腫を対象としている。

病棟稼働率は一〇〇%に近く、在棟日数は二〇一二年は二三日。緩和ケア病棟に入院する患者の約九〇%は病棟で亡くなるが、在宅に戻る方もある。

東口高志教授が二〇〇三年に着任し、外科・緩和医療学講座を開設し十年が経過した。入院された患者は、高度の栄養障害を伴う場合が多いが、栄養サポートチームが介入す

ることで栄養状態が改善し、痩せや、筋肉の衰えを防止することができた。また、食事の見た目や、形態を工夫した、緩和ケア食に力を入れている。そうすることで、もう一度食べる喜びを得られる患者もある。また、緩和ケア病棟の基本方針に沿った、医療スタッフ、ボランティアの関わるアロママッサージなどの補完代替療法など、患者の痛みを和らげる取り組みの効果として、医療用麻薬の使用量が減少したとのデータもある。

また、痛みを和らげる遠赤外線ルームも完備されている。和室の家族控室や談話コーナー、病室にはソファベッドがあり、ご家族とともに過ごせる環境が整っている。

また、病棟コンセルジュという役割が存在し、患者・ご家族の要望を聞き取り、病棟内の環境の改善に努めている。

病院は、退院した患者や外来通院中の患者に対して、二四時間の緊急連絡体制をとっている。しかし、在宅に戻った患者の訪問診療は行っていないため、近隣のがん診療連携拠点病院、診療所、施設などとの地域連携が大切である。

説明後は院内見学。回復期リハビリテーション病棟は訓練室と病棟が一体化し、歩行訓練がスムーズに出来るように廊下の幅が広

く、理学療法室、作業療法室では、多くの患者さんがリハビリに励んでおられました。

緩和ケア病棟の個室では、大きな窓から木々や花壇の花を見ることができ、季節を感じられるような配慮がされていました。コミュニティルームでは、ボランティアによる大正琴の演奏やお茶のサービスが行われており、多くの患者さんが病室から出て、家族とともに楽しまれました。

参加者や会員の皆様に、地域にこのような療養の場があることを知っていただき、今回の見学会で得た情報を、周りの方に伝えていただいたり、今後療養生活をどのように過ごすかという課題に直面されたときに役立てていただければ幸いです。

(K)

## 今年度 第一回 勉強会

### 演題 現代のお葬式事情



講師 荒木 薫 氏



日時 平成二六年四月二〇日(日)

一三時三〇分～一五時

場所 三重県総合文化センター

生涯学習センター 視聴覚室

参加者 二二名

## 参加者アンケート感想文(抜粋)

5 論理的にお葬式のことを…との前おきから始まった本日の講演はなるほどそうだったのかとスッキリしました。

一人ぐらし高齢者が増える中での葬式は…よい知恵はないものでしょうか。

6 講演では、実例をわかりやすく紹介していただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

7 特に良かったのは、常々お経の意味が分らないので現代日本語で話をしてほしいと思っていた。

教典には良い話を書いてある、わかる話でするにはお経を理解していないとできない、そのことを隠すために、難解なお経を読んでいると思う。

今一つ参考になったのは、お骨を引き取らなくてもいいとのこと、私は、そうしてほしいと思う。

8 今日は有難うございました。

御葬式は自分の心の中のものだと思っております。家族及び近親者とのけじめの儀式です。早くから準備しておきたいとあらためて思いました。

## 第十七回(平成二六年度)総会報告

日時 平成二六年四月二十日(日)

場所 三重県総合文化センター

視聴覚室

一. 会長挨拶(大西)

二. 総会議長選出(遠藤)

三. 平成二五年度活動報告(事務局)

四. 平成二五年度会計報告(会計)

五. 会計監査報告(樋口)

六. 規約改正案の提案並びに承認(事務局)

七. 平成二六年度、二七年度役員案の提案並びに承認(事務局)

八. 平成二六年度活動計画(案)(事務局)

九. 平成二六年度予算(案)(会計)

十. その他

今年度の総会は、役員改選、規約の改正などの協議事項があり、出席の会員の皆様にご承認を頂きました。

今年度も会長を中心に運営委員一同、会員の皆様と共にこの会の活動を行っていきたいと思います。(事務局)



1 大変参考になるお話をありがとうございます御座居ました。今後の参考にさせていただきます。

2 葬儀について心の整理が少し出来たように思います。ありがとうございました。

3 シビアなお話で、お寺さんでは絶対聞けないことでした。又、この会ならではの企画で会員でよ

かったと思いましたが。

4 後期高齢者、

一人暮らしが多くなってきた現代にマッチした講演で、今後の生活にとても参考になりました。ありがとうございました。

## 今後の予定

### 総会ならびに勉強会

日時 平成二七年四月一九日(日)  
会場 三重県総合文化センター  
視聴覚室

総会 一三時三〇分～一四時三〇分

勉強会 一四時三〇分～一六時  
皆様の活発な参加をお願いします。

**講演** 「自殺願望を持つ人を考える」  
カウンセラーとしての経験から



講師  
イレーネ ビューフリ・内田氏

#### ●講師紹介

略歴 名張市在住。一九四三年生れ、スイス国籍。一九六七年スイス東アジア・ミッション(教会団体)から日本人の夫と共に日本に派遣される。一九七〇年より三重大学を中心に五つの大学でドイツ語講師を務めて

きた。一九九八年心理カウンセラー資格を取得。同年より三重大学の委嘱で外国人学生のカウンセラーに就任。同大の学生カウンセリングを開拓し、現在は全学生対象の学生相談室に心理カウンセラーとして勤務。箱庭療法を専門としている。

### 発定一七周年記念講演会

日時 平成二七年六月二一日(日)

会場 三重県総合文化センター  
中ホール  
一三時～

**講演** 「輝いて生きるために」  
ユーモアのすすめ



講師  
アルフォンス・デーケン氏  
(哲学者・上智大学名誉教授)

#### ●オープニング

ミニコンサートとして「絵本と詩と音楽」とを予定しています。

## 編集後記

また背筋が凍るような事件が、佐世保でおきた。人を殺してみたかったという一六歳の少女が実行してしまったのだ。彼女は一学期間三日しか登校していなかったという。教師は何をしていたのだろうか。独居のこの子を守る人はいなかったのか？母と死別後グリーフケアが特に大事なときに、受験や父の再婚が重なったようだ。大人社会の無責任・無力さが悔やまれてならない。私たちの会ももっと広がり、根を張らなくてはならないと痛感する七月であった。(Y)

